

むすびステーション

－「停留所」でむすぶ、人とひと、人とまち－



待つだけではない、「人とひと、人とまち」をむすぶためのステーション

自動運転の実用化に伴い車内の使い方が豊かになるだけでなく、自動運転とまちをつなぐ停留所に対してもより豊かな空間のあり方が必要とされています。本プロジェクトでは実証実験で自動運転が走行する「名駅南」エリアの歩道空間を活用し、従来のように「ただ待つ」だけではない、「人とひと、人とまち」をつなぐ未来のステーションを提案します。

1 Background

自動運転の実用化にむけて

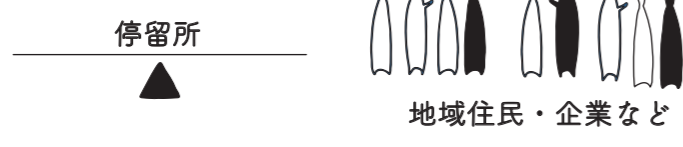


私たちは、自動運転車の実用化を目指し自動運転車両の産官学連携での実証実験をおこなっています。自動運転車の実用化により、モビリティは「移動」のためのものではなく「何かをする場所」へと変わっていきます。

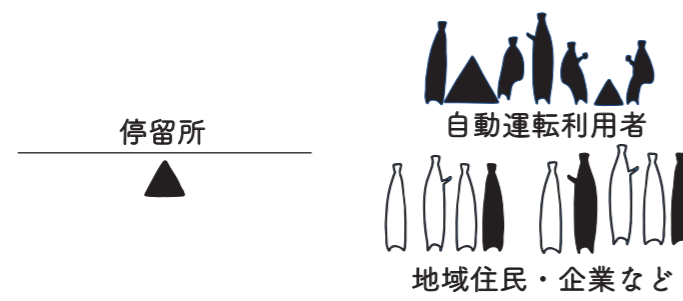
2 Proposal

人とひと、人とまちをむすぶ停留所

▲人と人をむすぶ



▲人とまちをむすぶ



自動運転の実用化によってモビリティが「何かをする場所」に変化することで、人とまちがよりつながっていきます。そこで、従来の停留所のように「待つ」だけでなく、停留所を通して「つながる」「楽しめる」ようになることで人とひと、人とまちをむすぶステーションを提案します。

3 Site

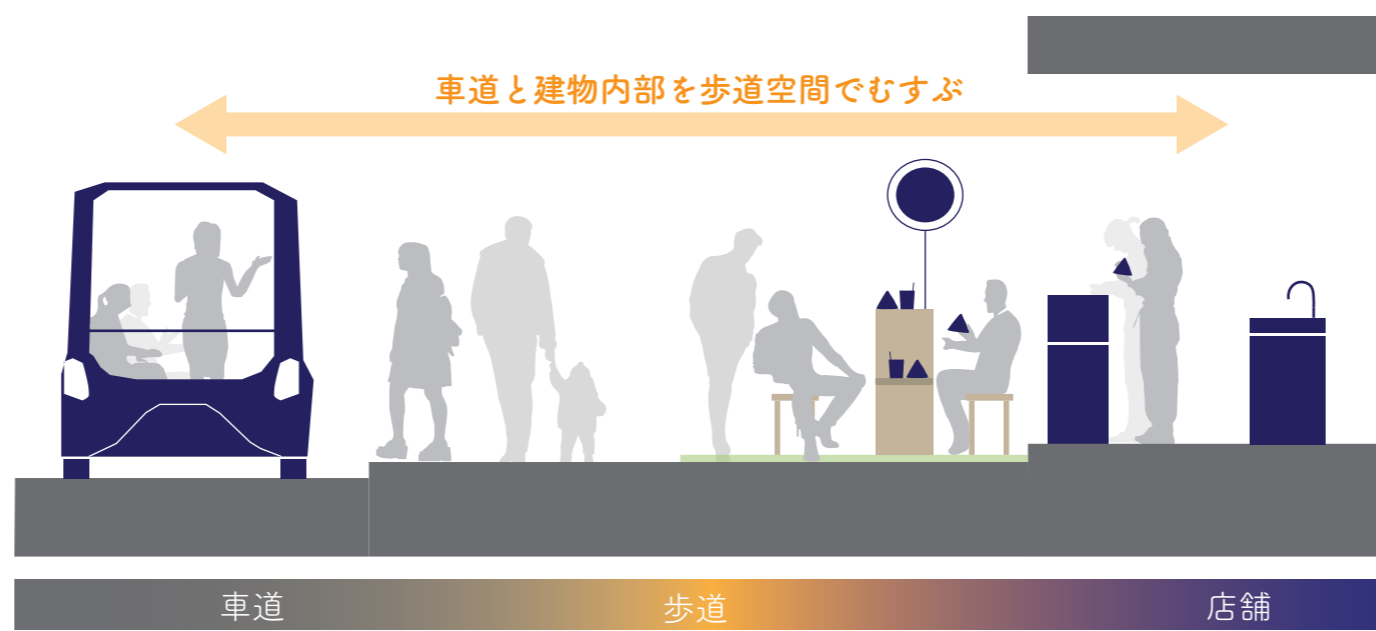
飲食店前の歩道空間の活用



自動運転走行ルートである名駅南地区三蔵通りにあり、停留所の1つである「おむすび屋」とシェアキッチン前に設置します。今回は歩道空間を活用するために、コロナ占用特例が反映される飲食店前を設置場所として選定しました。

4 人とひとをむすぶ

おむすび屋・シェアキッチンとの連携



自動運転の停留所を歩道空間に設置することで、従来の停留所の機能だけでなく、おむすび屋と連携して飲食スペースとして利用できる空間にします。これにより、自動運転車利用者とおむすび屋利用者をつなげる場を演出します。

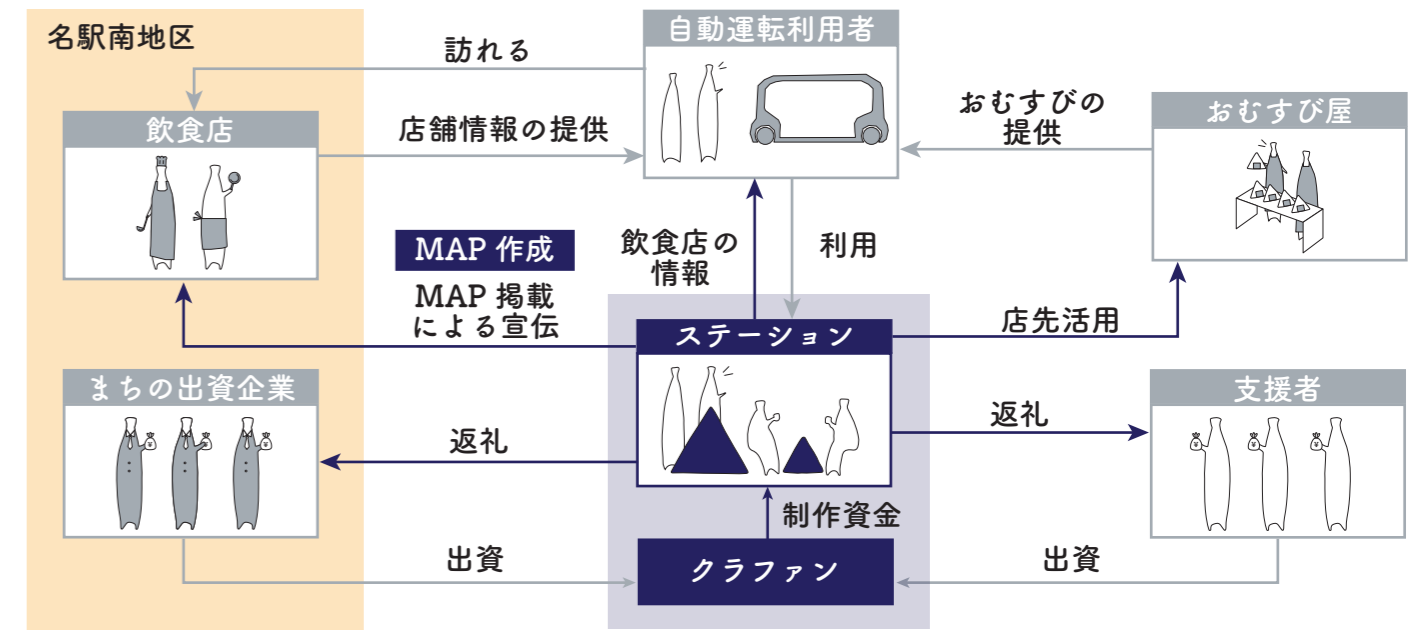
5 人とまちをむすぶ情報発信

MAP掲載によるまちへの回遊性向上



名駅南の飲食店情報提供してもらい、イラストをプロジェクトメンバーで描き、名駅南地区の飲食店を紹介するMAPを作成しました。このMAPをステーション前に掲載することにより、自動運転利用者にまちの魅力を知らせ、まちへの回遊性を向上させます。

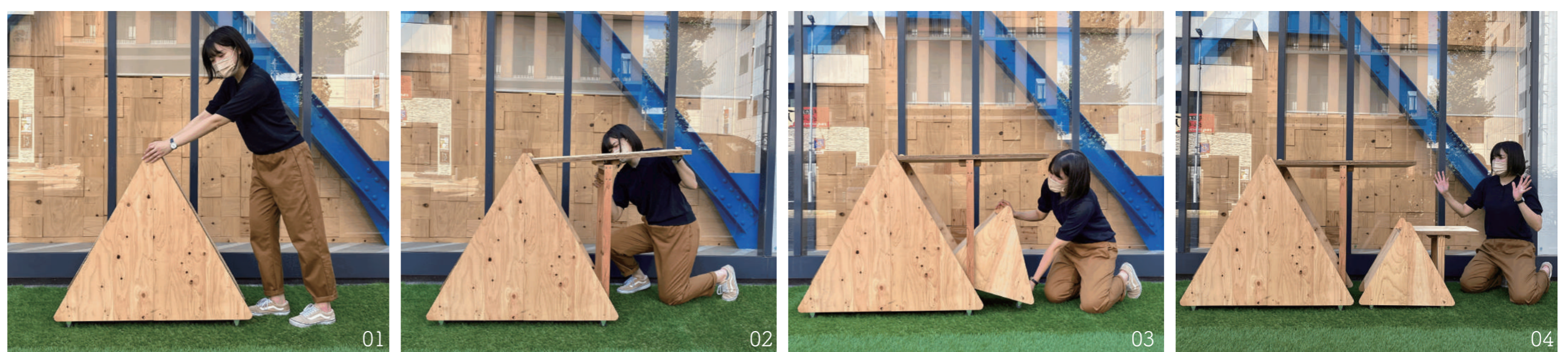
むすぶスキーム



ステーションの制作と設置を通して、自動運転利用者と名駅南地区の企業、地域の方々をむすぶきっかけをつくります。また、クラファンをおこない、ステーションの制作資金を回収するだけでなく日本全国に向けてプロジェクトの情報発信をすることで、全国の人とまちのひとをむすぶスキームを作りました。

6 Design

ころがり、ひらく、さんかくのデザイン



おむすびの三角をモチーフにした可動式の什器で、組み立て・持ち運びをすることができます。飲食や休憩をする際のテーブルとして活用でき、1つのおむすびから多様な使い方が広がります。大きいおむすびのなかに小さいおむすびを収納することができ、1つの形から多様なデザインやレイアウトができる仕掛けとしています。

代表者：濱田 紗希
saki.hamada56@gmail.com

クラウドファンディングの実施



クラウドファンディングで制作資金を回収することで、プロジェクトの情報発信をするとともに、名駅南地区の歩道空間への機運を高めます。多くの方にご支援をいただき9月16日に目標金額の40万を達成しました。

